

枕草子抄

十一





家ひりくきふれ
 毛ハお殿小まづ人
 里亭よ出あつす
 つひしははにさやの
 里亭乃よまを扱れ
 づ人をおひす
 らひてまゐるまふ
 まり

又むりうそふも
 るい 彼らやづ人の
 寺しき人の足す
 まいんねの 彼まは
 人乃まはれぬま
 つる時を
 主の

釈族二門の

家ひりくきふれ
 毛ハお殿小まづ人
 里亭よ出あつす
 つひしははにさやの
 里亭乃よまを扱れ
 づ人をおひす
 らひてまゐるまふ
 まり

又むりうそふも
 るい 彼らやづ人の
 寺しき人の足す
 まいんねの 彼まは
 人乃まはれぬま
 つる時を
 主の

か。又中古は時代
藝乃、衣服、
方の物、
論語云、藝、
右、
か、
と、
よ、
か、
と、
か、

彈正弼、
職、
彈正弼、
延喜式云、
以下、

き、
あ、
よ、
乃、
さ、
あ、
ら、
あ、
ま、
よ、

群、
諸、
橋、
予、
人、
所、
と、
高、
十、
彈、
正、
彈、
此、
む、

い、
か、
一、
む、
と、
乃、
り、
て、
は、
か、
あ、
ま、
ま、

むね、
胸、

むね、
胸、

すなわち直而く
教のまじりてはく

四位入位ハ者六位ハ
四位ハ里ハ位ハ細乃
袍ハ者ハお尋事ト
六位ハ縁紗ト
似合ハ者ト

禁中ハ直者ト
乃衣服ハ男女ト
けくもあつて

吟味ハ由り外れト
家ノ君トありある
一家ハ者トありある
子乃衣服ハ吟味ハ
吟味ハ者トありある
一家の内トありある
衣服の子ハ吟味ハ

よきものきりけり
つひかり

四位ハ位ハ者ト六位ハ
お尋事トありある
事ハ者トありある
より何ハ者トありある

使ハ人トありある
めりトありある
あハお尋事トありある

くハ者トありある
教ハ者トありある
はハ者トありある

他ハ乃 候者トありある
又ハ者トありある
一家の内トありある

一家の内トありある
お尋事トありある
お尋事トありある

亦ハ者トありある
中乃 者トありある
大乃 者トありある

くハ者トありある
あハ者トありある
あハ者トありある

あハ者トありある
あハ者トありある
あハ者トありある

あハ者トありある
あハ者トありある
あハ者トありある

中乃 者トありある
大乃 者トありある

あハ者トありある
あハ者トありある

清少細言枕草子者中古之遺風和語之後創也
并美於家女源氏物語尤當因就之者也然亦有
選其義按其部考其辭者惜中蓋有之未見之
而自蚤案其好讀無數志為訓釋故平日覽古集
每有意會則列事題書就思傍訊既宣意或
遂予自出字以成十二卷以春曙抄為名猶有
類而闕如之者惟勅更待後之博洽不強鑿金說葉
今也流傳于市井也庶幾便和尋之人做其詞花
効古風流云尔

延寶二年甲寅七月十七日

山村孝以出

